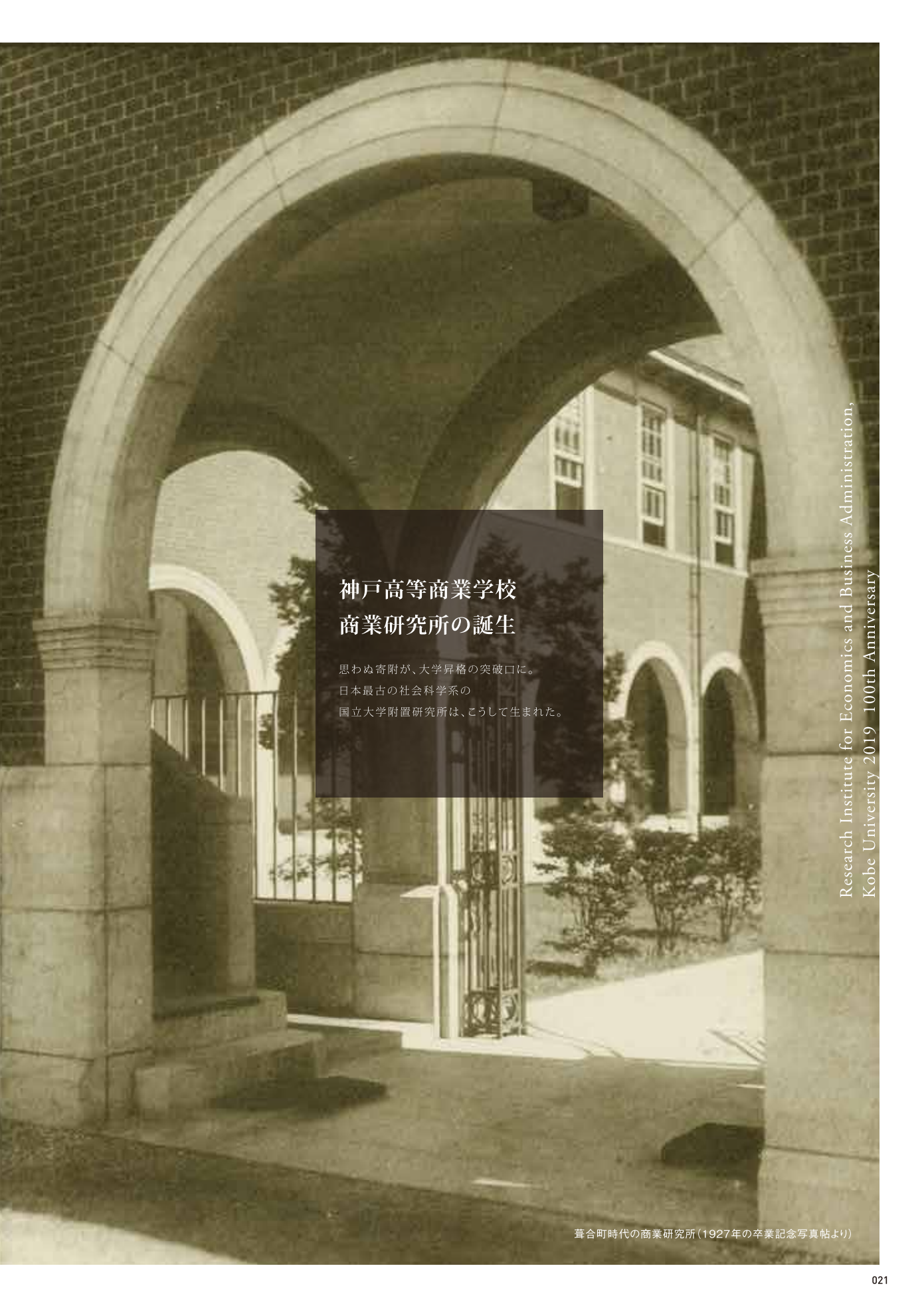




神戸高等商業学校 商業研究所の誕生

思わぬ寄附が、大学昇格の突破口に。
日本最古の社会科学系の
国立大学附置研究所は、こうして生まれた。

Research Institute for Economics and Business Administration,
Kobe University 2019 100th Anniversary

大学昇格をめざし構想された、 前身・商業研究所

神戸大学経済経営研究所の前身である、神戸高等商業学校商業研究所が誕生したのは1919年。その頃、欧州ではヴェルサイユ条約が結ばれ、ドイツではワイマール憲法が成立。ロシアではロマノフ王朝が倒されロシア革命へ向かい、世界的にスペイン風邪が流行するなど、世界がめまぐるしく動いていました。日本とはいえば、開国・明治維新から50年をこえ、列強国に追いつくべく軍事大国化を急ぎ、第一次世界大戦を契機に経済は飛躍的な発展を遂げます。同時に高等教育機関の拡張充実が叫ばれ、1918年に改正された「大学令」により、単科大学と国公私立の大学の設立が認められるようになりました。1920年には東京高等商業学校が東京商科大学へ昇格を果たし、それ以前から神戸高等商業学校でも、大学昇格を願う運動が熱を帯びていました。そして、大学にふさわしい研究体制を整備・充実させるための構想の一つが、本校の坂西由蔵教授により設立された経済調査部門「調査課」の機能を拡充した「商業研究所」の設立だったのです。

大学昇格運動



第9回学生大会決議
(1922年4月13日)



公開演説会当日の街頭でのピラ撒き
(1922年10月3日)

兼松商店の寄附により、 兼松記念館建設へ

大学昇格をめざし、神戸高等商業学校の内部で研究所附置を熱望する声ピークに達していた1919年2月。思いもよらないできごとが起こります。なんと幸運にも、兼松翁記念会の前田卯之助氏から本校の水島鍬也校長に対し、商業研究所に充てべき建物として「兼松記念館」を建設寄附する旨の申し出があったのです。さらに株式会社兼松商店(現・兼松株式会社)から、外国貿易研究基金30万円および研究資金3万円の寄附が寄せられました。寄附金は、兼松商店の社員のボーナスの一部を積み立てたものともいわれ、大学昇格はもとより、わが国の発展を担う研究所として、多大なる期待が寄せられていたのです。



兼松房治郎



水島鍬也 初代校長

多くの期待と希望を乗せて、 念願の大学開設が実現

寄附の申し出を受け、さっそく兼松記念館の設計がスタート。同時に商業研究所の設立準備も進められ、1919年10月に商業研究所仮規程が制定されました。水島鍬也校長は、この規程に基づき、田崎慎治、石橋五郎、坂西由蔵、烏賀陽然良、瀧谷善一の5教授に研究所の運営にあたる商業研究所委員を嘱託。委員の互選により田崎が常務委員に、瀧谷が調査部長に選出され、商業研究所は、ついに正式な設立を迎えることができました。そして、兼松記念館は1920年2月起工、同年12月に竣工しました。

その後も神戸高等商業学校では公開演説会や学生大会が盛んに行われ、大学昇格を求める運動が続きました。1923年3月に帝国議会にて、神戸高等商業学校の神戸商業大学への昇格が決定。しかしながら、関東大震災や金融恐慌の発生などにより、1927年に予定されていた開設は先送りに。そして、揺るぎない情熱が結実し、1929年4月、願い続けた神戸商業大学がようやく設立。

大学昇格へ貢献するミッションを担い、設立された商業研究所。民間からの寛大な寄附に込められた、わが国の明るい未来を願う期待と希望。多くの想いととも誕生した商業研究所の歩みは、ここからはじまりました。



田崎慎治 初代学長



瀧谷善一 調査部長



大学昇格承認を伝える新聞記事
(『大阪朝日新聞』1922年11月9日)



商業研究所彙報 第1号



商業研究所講演集 第1集